千 歳 消 防 の 沿 革

年　　月	事　　項
大正11年８月	・　街が徐々に発展し、札幌、苫小牧を結ぶ国道沿いに約 55 戸の家屋が建ち並び消防機関の設置が痛感され、山崎友吉、吉野藤五郎ら有志が相図り、組頭中川種次郎村会議員以下若人 35 名で組織し、「千歳消防組」を創設する。装備は纏１本、ドイツ式腕用ポンプ１台、ホース 20 本、鳶 15 丁等であった。
大正 12 年５月	・　林野局から原木の払い下げを受け、さらに有志の寄付によって木造平屋建の「番屋」１棟を役場隣地に建設する。
昭和　６年６月	・　規律訓練優秀につき「金馬れん」を贈られ表彰を受ける。
昭和 10 年２月	・　鉄骨製「火の見ヤグラ」を建設する。
昭和 11 年４月	・　組頭中川種次郎辞任し、渡部栄蔵村会議員が２代目組頭に就任する。
10月	・　陸軍特別大演習及び地方行幸支援に対し、北海道庁長官から感謝状を授与される。
昭和 13 年12月	・　市街地の繁栄に伴い消防ポンプ自動車の購入の要望が高まり、予算の一部が村議会で可決、大半は有志の寄付金により最新鋭車(フォード 38 年式)1 台を整備する。
昭和 14 年４月	・　消防制度の改正により警防団に改組、団員の増強を図り各地域にも分団を設けて防空を主眼とし、国内防衛の一翼を担った。
	・　初代警防団長として渡部栄蔵就任する。
昭和 19 年４月	・　空襲火災と防空監視強化のため常備員２名を採用配置する。
昭和 21 年５月	・　常備員 10 名増員、進駐軍兵舎等の警備にあたる。
８月	・　常備員さらに 13 名増員、進駐軍兵舎等の警備にあたる。
９月	・　常備消防部長に山本加藤就任する。
10月	・　元日本海軍で使用した消防ポンプ自動車及び三輪ポンプ自動車各 1 台財務局から払い下げを受け、市街地に配置する。
昭和 22 年８月	・　消防団条例制定、旧警防団を１団２分団制に改組し団長以下 100 名で組織する。常備員は全員進駐軍要員に身分変更のうえ基地内勤務となる。
10月	・　進駐軍駐留に伴い火災多発の傾向から、市街地に常備制を取り、常備員１名を配置する。
11月	・　常備員１名採用、総員２名となる。
昭和 23 年５月	・　常備員２名採用、総員４名となる。
10月	・　消防本部設置、初代消防長渡部栄蔵以下６名(常備員４名)となる。
昭和 26 年４月	・　初代消防長渡部栄蔵退任し、２代目消防長として山崎友吉町長(事務取扱)就任する。
	・　常備員２名採用、総員６名となる。
昭和 27 年４月	・　水槽付消防ポンプ自動車１台を整備し本部に配置する。
６月	・　消防技能競技大会において、成績優秀により北海道石狩支庁から賞状を授与される。
昭和28年 10月	・　東雲町２丁目に鉄筋ブロック造平屋建の新庁舎が落成する。
	・　広報車として千歳警察署から払い下げの中古車ウイリス・ジープ１台を配置する。
昭和 29 年１月	・　職員３名採用、総員９名となる。
４月	・　定数 10 名とする。職員１名採用する。
９月	・　定数 12 名とする。職員２名採用する。
	・　水槽付消防ポンプ自動車１台を整備し、本部に配置する。
	・　水道事業開始に伴い、消火栓２基が新設される。また、庁舎横に高さ 10m の鉄骨製望楼が完成し、夜間のみ立しょう開始する。
11月	・　５日３時30分頃、幸町２丁目12番地から出火。職団員をはじめ駐留軍消防隊の応援を得て敢闘するも防火用水路は工事中のため断水。17棟全焼する。
昭和 30 年３月	・　小型動力ポンプ(可搬式)を整備し、本部に配置する。

年　月	事　項
４月	・　定数 14 名とする。職員２名採用する。
	・　昼夜連続の望楼勤務を開始する。
５月	・　２代目消防団長に前田政太郎就任する。
９月	・　11 日４時 26 分頃、幸町１丁目 16 番地から出火、錦町２丁目の一部まで延焼する。札幌、苫小牧両市をはじめ、隣接市町村から消防車 19 台の応援を得て消火に当たるも 170 棟焼失、726 名の被災者を出した。
昭和 31 年２月	・　消防委員会を開催し、消防力整備３か年計画を作成する。
４月	・　定数 17 名とする。職員３名採用する。
10月	・　庁舎の一部を増改築、消防ポンプ自動車(小型動力ポンプ積載)１台を整備し、本部に配置する。
	・　火災防ぎょ活動に対する功績により、北海道消防協会長から表彰状を授与される。
11月	・　火災防ぎょ活動に対する功績により、北海道知事から表彰状を授与される。
昭和 32 年３月	・　適切なる火災防ぎょ活動に対する功績により、国家消防本部長から消防本部及び消防団が表彰される。
４月	・　定数 20 名とする。職員３名採用する。
昭和 33 年５月	・　定数 21 名となる。職員１名採用する。
	・　広報車(トヨタジープ)１台を整備する。
12月	・　高さ 27ｍの鈴木式望楼と鉄筋コンクリート造一部 2 階建て延 675 ㎡の庁舎が東雲町２丁目、旧千歳川埋立地に落成移転する。
昭和 34 年１月	・　泉郷自治消防団に小型動力ポンプ配置する。
４月	・　３代目消防長(事務取扱)に高橋為次助役就任する。
５月	・　消防長職務代理者に消防司令岩本千年男就任する。
７月	・　定数 25 名とする。職員２名採用する。
10月	・　機構改革を行い、消防本部を総務・警防・予防の３係制とし、１消防署を設ける。
昭和 35 年２月	・　成績優秀機関として日本消防協会長から「竿頭綬」を授与される。
４月	・　定数 26 名とする。職員３名採用する。
昭和 36 年２月	・　消防ポンプ自動車１台を整備し、署に配置する。
４月	・　定数 29 名とする。
５月	・　１日13時55分頃、幸町５丁目12の３番地から出火。更に飛び火により千代田町６丁目の日通倉庫に延焼、農協など30棟を全焼し、56世帯が被災する。
７月	・　職員３名採用する。
９月	・　４代目消防長(常勤の専任消防長としては初代)に岩本千年男就任、署長を兼務する。
11月	・　電話が自動式に切り替わり、火災専用電話設置される。
昭和 37 年４月	・　定数 31 名となる。職員２名採用する。
７月	・　日本損害保険協会から消防ポンプ自動車１台の寄贈を受け、損害保険号と命名し、署に配置する。
昭和 38 年４月	・　定数 33 名とする。職員２名採用する。
８月	・　都市等級調査の結果、５等級となる。
９月	・　小型動力ポンプを整備し、東千歳地区に配置する。
昭和 39 年２月	・　日本消防協会から消防団に対し、「表彰旗」授与される。
４月	・　消防団条例を改正、定数を 50 名から 120 名に増員し、東千歳分団及び支笏湖分団を新設する。
９月	・　小型動力ポンプを整備し、支笏湖分団に配置する。
11月	・　職員２名採用する。
12月	・　水槽付消防ポンプ自動車１台を整備し、署に配置する。
昭和 40 年４月	・　長都分団及び泉郷分団を新設する。
	・　定数 34 名とする。職員１名採用する。
６月	・　美笛分団を新設する。消防団は、団員定数 200 名、１団・６分団を編成し、人員の整備を完了する。

年　月	事　項
7月	・　消防長兼務の署長を専任とし、２代目消防署長に須川正直就任する。
	・　小型動力ポンプを整備し、長都分団に配置する。
9月	・　集中豪雨及び台風 24 号本道上陸のため、職員が出動し、災害対策本部の下に活動する。
10月	・　王子製紙㈱及び千歳鉱山㈱から小型動力ポンプなどの寄贈を受け、支笏湖分団及び美笛分団に配置する。
11月	・　消防専用無線電話装置を新設し、無線業務を開始する。
昭和 41 年４月	・　定数 36 名となる。職員２名採用する。
9月	・　救急車(日本消防協会補助)が９月 30 日署に配置され、10 月１日から業務を開始する。
昭和 42 年４月	・　定数 39 名となる。職員３名採用する。
7月	・　本部に次長制を採用、初代次長に須川正直就任(署長を兼務)する。
9月	・　小型動力ポンプを整備し、泉郷分団に配置する。
10月	・　東千歳分団に機械置場を建造する。
	・　消防本部庁舎を増築する。
	・　防火水槽(40 ㎥級・支笏湖畔)を設置する。
昭和 43 年４月	・　定数 43 名となる。職員４名採用する。
8月	・　支笏湖分団に機械置場を建造する。
昭和 44 年３月	・　化学消防車１台を整備し、署に配置する。
4月	・　定数 47 名となる。職員４名採用する。
9月	・　防火水槽(40 ㎥級・朝日町８丁目)を設置する。
	・　泉郷に防災倉庫(泉郷分団機械置場)を建造する。
	・　東千歳分団、長都分団、中央地区にサイレン塔を設置する。
10月	・　防火水槽(40 ㎥級・青葉丘)を設置する。
11月	・　元千歳市消防団副団長荒川作次氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
12月	・　元千歳市消防団副団長荒川作次氏(昭和 44 年３月退団)より小型動力ポンプの寄贈を受け、美笛分団に配置する。
昭和 45 年３月	・　「千歳消防の歌」を作成し、発表する。
4月	・　定数 51 名となる。職員４名採用する。
	・　千歳市消防団長前田政太郎氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
	・　消防本部に総務・予防の２課制を採用する。
9月	・　消防本部庁舎増築。
	・　千歳市消防団長前田政太郎氏から小型乗用車の寄贈を受け、消防本部に配置する。
10月	・　長都分団に機械置場を建造する。
11月	・　支笏湖、協和地区にサイレン塔を設置する。
12月	・　北信濃地区に富丘出張所を開設、職員６名、車両１台を配置する。
	・　屈折梯子付消防ポンプ自動車(16m級)１台を整備し、署に配置する。
昭和 46 年４月	・　定数 55 名となる。職員４名採用する。
6月	・　作業車１台を整備する。
8月	・　東丘地区にサイレン塔を設置する。
9月	・　美笛分団に機械置場を建造する。
11月	・　庁舎裏に訓練塔(鉄骨 15m)を設置する。
12月	・　高速道路の開通に伴い、日本道路公団から救急自動車の無償譲渡を受ける。
昭和 47 年２月	・　札幌オリンピック冬季大会にて恵庭岳滑降競技場の警戒その他の業務で職員を派遣する。
4月	・　定数 59 名となる。職員４名採用する。
	・　消防署富丘出張所に「愛の鐘」一式贈呈される。
7月	・　千歳市消防創設 50 周年記念式典行う。
8月	・　北海道消防学校へ教官として職員１名派遣する。
11 月	・　防火水槽(40 ㎥級・支笏湖畔２基及び末広６丁目)を設置する。

年　月	事　項
11月	・　釜加地区にサイレン塔を設置する。
昭和 48 年１月	・　千歳市内に危険物安全協会発足する。
３月	・　消防庁長官より、「竿頭綬」を受ける。
４月	・　定数 63 名となる。職員４名採用する。
５月	・　日本損害保険協会より消防ポンプ自動車１台の寄贈を受ける。
９月	・　30 日 2 時 30 分頃、幌美内の支笏湖プリンスホテルから出火した火災は市街地所在の署から火災現場まで遠距離であったために全焼となり、支笏湖分遣所の設置が検討された。
11月	・　支笏湖分団に消防ポンプ自動車１台を配置する。
昭和 49 年４月	・　定数 67 名となる。職員４名採用する。
９月	・　消防署に技術係及び担当主任制度を設ける。
	・　支笏湖温泉地区に支笏湖分遣所落成（５月から職員１名派遣）する。
10月	・　北海道防災総合訓練（市街地における航空機事故災害想定）を旧末広小学校跡地で実施する。
昭和 50 年１月	・　北海道消防学校へ教官として職員１名派遣する。
３月	・　消防ポンプ自動車（９号車）１台を整備する。
４月	・　定数 70 名となる。職員３名採用する。
６月	・　事業推進に対する功績により、北海道消防協会長から感謝状を授与される。
７月	・　婦人防火委員を 10 名に委嘱する。（第１期）
８月	・　パシフィックエンタープライズ株式会社より積載車１台の寄贈を受ける。
	・　防火水槽（40 ㎥級・北栄２丁目）を設置する。
11月	・　小型動力ポンプ付積載車１台を整備する。
昭和 51 年８月	・　第１回少年消防クラブ北海道地区大会が当市において開催される。
10月	・　全消会空港消防特別委員会が当市において開催される。
	・　４代目消防長岩本千年男退任し、５代目消防長に須川正直就任する。
12月	・　水槽付消防ポンプ自動車（１号車）１台を整備する。
	・　千歳危険物安全協会より広報車（２号車）１台の寄贈を受ける。
昭和 52 年１月	・　消防署に副署長制を設ける。
３月	・　大型水槽車（タンク容量 10,000 ﾘｯﾄﾙ）１台を整備する。
４月	・　定数 72 名となる。職員４名採用する。
	・　婦人防火委員定員を 10 名増員し、20 名に委嘱する。（第２期）
７月	・　消防庁舎建設事業第１期分（躯体工事等）着工する。
８月	・　第２回少年消防クラブ北海道地区大会が当市において開催される。
	・　千歳ライオンズクラブより救助工作車の寄贈を受ける。
	・　防火水槽（40 ㎥級・北栄１丁目）を設置する。
12月	・　千歳鉱山人員整理により美笛分団を廃団する。
昭和 53 年３月	・　駒里分団を新設する。
４月	・　定数 76 名となる。職員４名採用する。
８月	・　第１回千歳地区少年消防クラブ総合大会が開催される。
９月	・　支笏湖分団に水槽付消防ポンプ自動車（７号車）１台を配置する。
	・　日の出小学校の校庭内に防火水槽（40 ㎥級）を設置する。
	・　３代目消防署長に佐藤吉春就任する。
10月	・　東雲町４丁目に千歳市消防総合庁舎完成する。（鉄骨鉄筋コンクリート造２
11月	階建て床面積 2,617.34 ㎡）
昭和 54 年３月	・　３代目消防団長に浅見恒松就任する。
４月	・　職員３名採用する。
	・　婦人防火委員定員を 10 名増員し、30 名に委嘱する。（第３期）
７月	・　職員１名採用する。
	・　北海道消防操法訓練大会ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場し、成績優秀により北海道知事から賞状を授与される。
９月	・　防火水槽（40 ㎥級・末広８丁目及び住吉２丁目）を設置する。

年　月	事　項
10月	・　小型動力ポンプ付積載車（駒里分団）１台を整備する。
	・　駒里分団に機械置場を建造する。
昭和 55 年４月	・　職員４名採用する。
	・　４代目消防署長に高橋五郎就任する。
10月	・　防火水槽（40 ㎥級・高台５丁目及び新富３丁目）を設置する。
昭和 56 年４月	・　職員４名採用する。
	・　婦人防火委員を 30 名に委嘱する。（第４期）
９月	・　署長退任に伴い、消防長が署長兼務する。
10月	・　防火水槽（40 ㎥級・信濃２丁目及び自由ヶ丘２丁目）を設置する。
昭和 57 年２月	・　成績優秀機関として消防庁長官から「表彰旗」を授与される。
４月	・　定数 87 名となる。職員１名採用する。
８月	・　千歳ライオンズクラブより 15 人乗りマイクロバス１台の寄贈を受ける。
11月	・　防火水槽（40 ㎥級・花園３丁目）を設置する。
昭和 58 年２月	・　梯子車(41m級)１台を整備する。
４月	・　定数 92 名となる。職員７名採用する。
	・　婦人防火委員を 30 名に委嘱する。（第５期）
８月	・　日本消防協会より広報車１台の寄贈を受ける。
９月	・　日本損害保険協会より消防ポンプ自動車１台の寄贈を受ける。
10月	・　２代目消防本部次長に北山真一就任する。
12月	・　広報車１台を整備する。
	・　防火水槽（40 ㎥級・富丘４丁目及び北斗３丁目）を設置する。
昭和 59 年４月	・　定数 96 名となる。職員４名採用する。
10月	・　５代目消防署長に北山真一就任(次長が署長を兼務)する。
	・　組織機構の改革に伴い、消防署に副長制を設け、警備・予防・技術・通信救急の４係制となる。
11月	・　泉沢向陽台地区に向陽台出張所を開設、職員 11 名、車両３台を配置する。
12月	・　水槽付消防ポンプ自動車１台を整備し、向陽台出張所に配置する。
	・　備蓄倉庫兼車庫(117.82 ㎡)を庁舎裏に建設する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
昭和 60 年４月	・　職員１名採用する。
	・　元千歳市消防署長高橋五郎氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
	・　婦人防火委員定員を５名増員し、35 名に委嘱する。（第６期）
６月	・　第 37 回北海道消防大会を千歳市民文化センターにて開催する。（参集人員 2,800 名）
10月	・　防火水槽（40㎥級・富士４丁目、100 ㎥級・臨空工業団地内）を設置する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
昭和 61 年１月	・　Ⅳ型化学消防自動車１台を整備し、署に配置する。
４月	・　定数 101 名となる。職員５名採用する。
	・　５代目消防長須川正直退任し、６代目消防長に北山真一、６代目消防署長に三谷宣儀就任する。
昭和 62 年１月	・　防火水槽(100㎥級・清水町４丁目)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
４月	・　職員３名採用する。
	・　３代目消防団長浅見恒松退任し、４代目消防団長に細川誠一就任する。
	・　婦人防火委員を 35 名に委嘱する。（第７期）
７月	・　１日 19 時 52 分頃、航空自衛隊千歳基地の覆土式屋外タンク貯蔵所（第４類第１石油類（JP－４））が落雷により出火した火災は、消防機関や各自衛隊を合わせ延人員 206 名、車両 42 台を動員した。
10 月	・　東千歳分団車庫を由仁町三川より当市幌加に移転新築する。
12 月	・　防火水槽(40 ㎥級・梅ヶ丘３丁目、桜木５丁目)を設置する。

年　　月	事　　項
昭和 63 年４月	・　３代目消防本部次長に三谷宣儀就任(消防署長が消防本部次長を兼務)する。
	・　組織機構の改革に伴い、消防本部に警防課、署に警備１課・警備２課・指導課を新設し、本部３課・署３課・２出張所・１分遣所体制となる。
	・　元千歳市消防団長浅見恒松氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
11月	・　支笏湖分遣所に職員４名を配置し、隔日勤務体制となる。
平成元年　４月	・　定数 104 名となる。職員４名採用する。
	・　婦人防火委員を 35 名に委嘱する。(第８期)
	・　元千歳市消防長岩本千年男氏「勲五等双光旭日章」を受章する。
９月	・　第 44 回国民体育大会(軟式野球)の開催に伴う消防警備を実施する。
10月	・　広報車(西出張所用・広報７号車)を整備する。
	・　消防用水路蘭越取水口改修により消防用水路が復旧する。
	・　新川地区にサイレン塔を設置する。
11月	・　組織機構の改革に伴い、指導課を日勤体制とする。
12月	・　上長都地区に西出張所を開設、職員 11 名、車両２台を配置する。
平成２年　２月	・　水槽付消防ポンプ自動車(３号車)１台を整備し、西出張所に配置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
４月	・　６代目消防長北山真一退任し、７代目消防長に松浦堅治就任する。
	・　向陽台出張所に水槽付消防ポンプ自動車を配置(配置替)し、車両３台体制とする。
７月	・　北海道消防操法訓練大会小型ポンプ車の部に札幌地方支部の代表として出場する。
11月	・　防火水槽(40 ㎥級・自由ヶ丘４丁目、新富１丁目)を設置する。
平成３年　２月	・　救助工作車Ⅱ型１台を整備する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)署に配置し、兼任救助隊を発足する。
	・　西出張所に消防ポンプ自動車を配置(配置替)し、車両３台体制とする。
３月	・　富丘出張所を増改築する。
４月	・　職員３名採用する。
	・　婦人防火委員の定員を５名増員し、40 名に委嘱する。(第９期)
８月	・　職員１名採用する。
	・　組織機構の改革に伴い、本部予防課の主査を廃止し消防設備係を新設、消防署指導課を消防課に改め係を消防係、指導係とし、支笏湖分遣所を支笏湖温泉出張所に改め職員４名体制とする。
９月	・　４週６休制が実施され、消防本部及び消防署消防課が第２・第４土曜日閉庁となる。
10 月	・　支笏湖温泉出張所１名増員し、５名体制となる。
	・　防火水槽(40 ㎥級・白樺２丁目)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
12月	・　屈折梯子付消防自動車(25ｍ級)１台を整備する。(自治省消防庁補助金)
平成４年　３月	・　17 日８時50分頃、道央自動車道上り車線30.4㎞地点(上長都)から29.2㎞地点付近(恵庭市)までの区間で、約 1.2 ㎞にわたり大型バス・トラック・乗用車等 186 台が連続して衝突し、死者２名・重軽傷者 108 名を出す多重衝突事故が発生する。
４月	・　定数 110 名となる。職員５名採用する。
	・　次長兼務の署長を専任とし、７代目消防署長に江平等就任する。
	・　支笏湖温泉出張所長を日勤とする。
	・　防災業務の担当として、市長部局へ１名の出向を開始する。
	・　向陽台出張所に消防ポンプ自動車(９号車)を配置(配置替)する。
７月	・　千歳市消防創設 70 周年記念式典行う。
11月	・　元千歳市消防本部主幹岩本功氏「勲六等瑞宝章」を受章する。
12月	・　準高規格救急自動車１台を整備する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
平成５年　４月	・　定数 117 名となる。職員７名採用する。

年　月	事　項
	・　７代目消防長松浦堅治退任し、８代目消防長に三谷宣儀、４代目消防本部次長に神野寛就任する。
	・　組織機構の改革に伴い、署警備１・２課通信救急係を廃止し救急救助係及び指令係を新設する。
	・　北海道消防学校へ教官として職員１名派遣する。
	・　婦人防火委員の定員を 10 名増員し、49 名（１名欠員）に委嘱する。（第 10 期）
５月	・　第 46 回全国消防長会人事教養委員会を千歳市にて開催する。
６月	・　完全週休二日制が実施される。
９月	・　日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車１台の寄贈を受ける。
	・　空気呼吸器20体を整備する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
平成６年　３月	・　消防緊急通信指令施設（Ⅱ型）導入し、運用開始する。（自治省消防庁補助金）
	・　指揮本部車を整備する。（特定防衛施設周辺整備調整交付金）
４月	・　職員３名採用する。
	・　組織機構の改革に伴い、本部警防課に防災企画係を新設する。
	・　庁舎裏埋蔵文化財管理センターの移転に伴い、消防用資器材管理倉庫として建物引継ぎを受ける。（２階建、延べ 458.25 ㎡）
７月	・　団本部に女性消防団員５名が採用される。
11月	・　泉郷地区の分団車庫兼倉庫及びサイレン塔を新築する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
平成７年　３月	・　準高規格救急自動車１台を整備する。（特定防衛施設周辺整備調整交付金）
４月	・　職員２名採用する。
	・　団本部に女性消防団員５名が採用され、10 名となる。
	・　４代目消防団長細川誠一退任し、５代目消防団長に小柳重信就任する。
	・　婦人防火委員の定員を 10 名増員し、60 名に委嘱する。（第 11 期）
９月	・　化学防護服３着を整備する。
10月	・　支笏湖温泉出張所１名増員し、６名体制とする。
11月	・　元千歳市消防署向陽台出張所長山崎清吉氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
平成８年　２月	・　防火水槽（40㎥級・泉郷）を設置する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
４月	・　定数 127 名となる。職員８名採用する。
	・　団本部に女性消防団員１名を採用する。
９月	・　救急救命士業務に伴う器具（除細動・気管内挿入管・輸液セット）及び訓練機材購入する。
10月	・　８代目消防長三谷宣儀退任し、９代目消防長に神野寛就任（次長兼務）する。
	・　祝梅出張所準備室を新設、職員２名配置する。
11月	・　元千歳市消防団長細川誠一氏「勲五等瑞宝章」を受章する。
平成９年　３月	・　東丘地区のサイレン塔を移転新築する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
	・　広報車（祝梅広報）１台を整備する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
４月	・　水槽付消防ポンプ自動車１台を整備する。
	・　職員５名採用する。
	・　支笏湖温泉出張所１名増員し、７名体制とする。
	・　５代目消防本部次長に古源紘宇、７代目消防署長江平等退任し８代目消防署長に金雅志就任する。
	・　組織機構の改革に伴い、消防課を廃止し、警備課に指導係、警防課に主査を設ける。
	・　流通地区に祝梅出張所を開設、職員 11 名、車両３台を配置する。
	・　団本部に女性消防団員３名採用し 12 名となる。
８月	・　婦人防火委員の定員を 10 名増員し、69 名（１名欠員）に委嘱する。（第 12 期）
12月	・　千歳市防災総合訓練（航空機災害想定）を泉沢臨空工業団地内で実施する。
	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・北陽３丁目）及び協和地区にサイレン塔を設置する。
平成 10 年３月	（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
	・　救急救命士による救急業務の試験運用を開始する。

年　月	事　項
４月	・　職員５名採用する。
５月	・　団本部に女性消防団員３名採用、15 名となる。
６月	・　救急救命士による救急業務の本格運用を開始する。（１隊）
	・　成績優秀機関として北海道消防協会から「表彰旗」を授与される。
11 月	・　元千歳市消防長須川正直氏「勲五等双光旭日章」を受章する。
12 月	・　耐震性貯水槽(60 ㎥級・若草３丁目)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 11 年４月	・　５代目消防団長小柳重信退任し、６代目消防団長に大谷勇一就任する。
	・　９代目消防長神野寛退任し、10 代目消防長に金雅志、９代目消防署長に廣世平夫就任する。
	・　職員１名採用する。
	・　婦人防火委員を 70 名に委嘱する。(第 13 期)
	・　元千歳市消防団副団長阿部常夫氏「勲七等青色桐葉章」を受章する。
平成 12 年３月	・　広報車(支笏湖広報車)１台を整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	・　耐震性貯水槽(60㎥級・稲穂３丁目)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	・　有珠山噴火に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊を伊達市及び虻田町へ派遣する。(３月 30 日～５月８日　延 79 隊、188 名)
４月	・　職員３名採用する。
	・　組織機構の変革に伴い、消防本部に主幹(消防団担当)を配置する。
	・　６代目消防本部次長に廣世平夫、10 代目消防署長に古源紘宇就任する。
	・　元千歳市消防団長小柳重信氏「勲六等単光旭日章」を受章する。
８月	・　職員１名採用する。
平成 13 年１月	・　耐震性貯水槽(60 ㎥級・長都駅前４丁目)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	・　水槽付消防ポンプ自動車(祝梅水槽)１台を整備する。(空港環境整備協会助成)
	・　長都分団車庫及びサイレン塔を移転新築する。
３月	・　元千歳市消防長(勲五等双光旭日章)故岩本千年男氏叙位(正六位)を授かる。
４月	・　定数 136 名となる。職員５名採用する。
	・　機構改革に伴い、消防本部の主幹(消防団担当)を廃止し、警防課に主査(消防団担当)を配置する。
	・　10 代目消防長金雅志退任し、11 代目消防長に廣世平夫、７代目消防本部次長に高畠敏明就任する。
	・　千歳第一分団の２分団化を図り、千歳第一分団及び千歳第二分団とする。
	・　千歳市婦人防火委員の名称を千歳市女性防火委員に改正する。
	・　女性防火委員を 70 名に委嘱する。(第 14 期)
	・　支笏湖温泉出張所を移転新築する。
	・　難燃性作業服を導入する。
６月	・　全消会道支部道央地区協議会平成 13 年度予防・危険物事務研究会を千歳市にて開催する。
８月	・　災害用エアーテント１張を整備する。(空港環境整備協会助成)
10月	・　向陽台出張所２名増員し、13 名体制とする。
	・　高規格救急自動車(千歳救急３)１台を整備する。(空港環境整備協会助成)
	・　向陽台出張所へ救急１号車を配置し、救急業務を開始する。
12月	・　耐震性貯水槽(60 ㎥級・幌加)を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 14 年１月	・　千歳消防創設 80 周年記念祝賀会行う。
４月	・　千歳消防初の女性消防吏員１名を含む職員５名採用する。
	・　10 代目消防署長古源紘宇退任し、11 代目消防署長に森 満就任する。
	・　消防本部総務課庶務係の名称を総務係に変更する。
	・　北海道消防操法訓練大会ポンプ車の部に札幌地方支部代表として出場する。
	・　元千歳市消防団分団長故石塚雄一氏「勲六等瑞宝章」を受章する。

年　月	事　項
7月	・　元千歳市消防団分団長秋元敏雄氏「勲六等瑞宝章」を受章する。
8月	・　元消防長故神野寛氏「従六位・勲五等瑞宝章」を受章する。
11月	・　セパレーツ型防火衣 74 着を導入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
12月	・　耐震性貯水槽(60 ㎥級・文京３丁目)を設置する。(特定防衛施設周辺整備調整交付金)
平成 15 年４月	・　職員５名採用する。
	・　11 代目消防長廣世平夫退任し、12 代目消防長に高畠敏明、８代目消防本部次長に登坂修之就任する。
	・　６代目消防団長大谷勇一退任し、７代目消防団長に荒川重昭就任する。
	・　機構改革に伴い、救急救助係の名称を救急係に変更し、救急専従隊の２隊運用を開始する。
	・　千歳市女性防火委員の名称を千歳市防火委員に改正する。
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。(第 15 期)
９月	・　出光興産株式会社北海道製油所タンク火災・警戒に伴い、北海道広域消防相互応援協定に基づく応援隊を苫小牧市へ派遣する。(９月 29 日～10 月 18 日延 11 隊、55 名)
11月	・　元千歳市消防署向陽台出張所長高田幸雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・清流２丁目）を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	・　元千歳市消防署長故江平等氏「従六位・瑞宝双光章」を受章する。
平成 16 年１月	・　セパレーツ型防火衣 62 着を導入する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
２月	・　高規格救急自動車(千歳救急４)１台を整備する。(防衛施設周辺民生安定施設整備補助金)
	・　支笏湖温泉出張所へ救急２号車を予備車として配置する。
４月	・　職員４名採用する。
	・　９代目消防本部次長に今井茂就任、11 代目消防署長森 満退任し、12 代目消防署長に登坂修之就任する。
	・　機構改革に伴い、本部予防課に是正係を新設、署警備課の指導係、機械係を廃止、署に査察課を新設し指導係及び査察係を配置する。
	・　元千歳市消防署富丘出張所長高橋正美氏「瑞宝単光章」を受章する。
11月	・　元千歳市消防団長大谷勇一氏及び元千歳市消防団副団長坂野春雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・大和４丁目）を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 17 年４月	・　職員３名採用する。
	・　12 代目消防長高畠敏明退任し、13 代目消防長に登坂修之、13 代目消防署長に小林幸治就任する。
	・　元千歳市消防署富丘出張所長石塚達雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
	・　防火委員を 68 名に委嘱する。(第 16 期)
11月	・　元千歳市消防署向陽台出張所長松田芳三氏「瑞宝単光章」を受章する。
12月	・　熱画像直視装置１台を整備する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・あずさ２丁目）を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)
平成 18 年４月	・　職員３名採用する。
	・　10 代目消防本部次長に小林幸治、14 代目消防署長に今井茂就任する。
	・　機構改革に伴い、署の査察課を廃止し、警備課に査察係を配置する。
	・　元千歳市消防署富丘出張所長中村守氏、元千歳市消防団副団長信田茂氏「瑞宝単光章」を受章する。
11 月	・　元千歳市消防署西出張所長野口健氏「瑞宝単光章」を受章する。
12 月	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・北光６丁目）を設置する。(石油貯蔵施設立地対策等交付金)

年　　月	事　　項
平成 19 年４月	・　定数 131 名となる。
	・　機構改革に伴い、本部予防課の是正係、本部警防課のＭＣ担当主査を廃止し、警備課に指導係を配置する。
	・　７代目消防団長荒川重昭退任し、８代目消防団長に細越一信就任する。
	・　13 代目消防長登坂修之退任し、14 代目消防長に小林幸治、11 代目本部次長に土居裕就任する。
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。（第 17 期）
	・　元千歳市消防署祝梅出張所長高嶋正之氏「瑞宝単光章」を受章する。
10 月	・　緊急消防援助隊 北海道・東北ブロック合同訓練（岩手県一関市）に職員２名参加する。
平成 20 年４月	・　職員４名採用する。
	・　北海道防災航空室１名派遣する。（総務課付）
	・　機構改革に伴い、本部に主幹（消防広域化担当）を配置する。
	・　元千歳市消防署向陽台出張所係長中村正次氏、元千歳市消防団長荒川重昭氏「瑞宝単光章」を受章する。
５月	・　第 90 回全国消防長会財政委員会を千歳市にて開催する。
７月	・　「北海道洞爺湖サミット 2008」開催に伴う消防特別警戒実施のため、全国の消防本部から応援を受けて、消防総合庁舎内に千歳地区警戒本部を設置し警戒を実施する。（７月５日～11 日　消防部隊 10 隊 88 名、情報員４名、予防警戒員 12 名）
	・　「ジュニアエイトサミット 2008 千歳支笏湖」開催に伴い、支笏湖地区において消防特別警戒を実施する。
11 月	・　元千歳市消防長三谷宣儀氏、元千歳市消防長金雅志氏、元千歳市消防本部次長古源紘宇氏「瑞宝双光章」を受章する。
平成 21 年４月	・　職員３名採用する。
	・　機構改革に伴い、本部主幹に主幹付係員を配置し、署の警備課に配置していた救急係及び指令係を分離し、救急指令課として新設する。
	・　防火委員を 69 名に委嘱する。（第 18 期）
	・　元千歳市消防長廣世平夫氏「瑞宝双光章」を受章する。
５月	・　第１回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。
８月	・　職員１名採用する。
	・　平成 21 年度全国消防長会北海道支部総務委員会を千歳市にて開催する。
11 月	・　元千歳市消防署支笏湖温泉出張所長田畑俊春氏、元千歳市消防本部警防課係長和泉宗雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 22 年１月	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・春日町１丁目）を設置する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
	・　第２回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。
３月	・　第３回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。
４月	・　職員２名採用する。
	・　14 代目消防長小林幸治退任し、15 代目消防長に土居裕、12 代目本部次長に水森昭治、14 代目消防署長今井茂退任し、15 代目消防署長に上原髙司就任する。
	・　元千歳市消防署長森 満氏「瑞宝双光章」、元千歳市消防団分団長千葉信一氏、元千歳市消防本部主幹（消防団担当）福岡博彦氏「瑞宝単光章」受章する。
５月	・　職員１名採用する。
	・　機構改革に伴い、本部主幹に主幹付主査を新設する。
	・　第４回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。
９月	・　元千歳市消防署長故高橋五郎氏「正七位」を受章する。
11 月	・　元千歳市消防署警備課係長岡田勝氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 23 年１月	・　耐震性貯水槽（60 ㎥級・柏陽３丁目）を設置する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）

年　月	事　項
２月	・　元千歳市消防団副分団長故佐々木清氏「瑞宝単光章」を受章する。
３月	・　「東北地方太平洋沖地震」（東日本大震災）に伴い緊急消防援助隊派遣要請を受け、北海道隊として本市消防から宮城県石巻市へ応援隊を派遣する。（３月 16 日～４月 27 日　13 隊 29 名）
４月	・　職員４名採用する。
	・　石狩振興局内消防救急デジタル無線共同整備事務局（札幌市消防局）へ１名派遣する。（総務課付）
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。（第 19 期）
	・　高機能消防指令センター（Ⅱ型）導入し運用開始する。（防衛施設周辺民生安定施設整備補助金）
	・　元千歳市消防署向陽台出張所長温井崇文氏「瑞宝単光章」を受章する。
５月	・　第５回、第６回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。
８月	・　女性消防団員を分団化し、千歳第３分団となる。
	・　第７回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。
11 月	・　元千歳市消防長高畠敏明氏、元千歳市消防長登坂修之氏「瑞宝双光章」、元千歳市消防団本部長橋本守氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 24 年１月	・　第８回千歳市・恵庭市・北広島市消防広域化検討委員会を実施する。（３市の消防広域化を見送り、平成 23 年度末で検討委員会を解散）
４月	・　職員２名採用する。
	・　15 代目消防長土居裕退任し、16 代目消防長に水森昭治、13 代目消防本部次長に橋本悟志就任する。
	・　元千歳市消防署西出張所長佐久間廣信氏、元千歳市消防署祝梅出張所長黒崎信行氏、元千歳市消防団副団長岩本信二氏「瑞宝単光章」を受章する。
８月	・　８代目消防団長細越一信ご逝去になる。
９月	・　職員２名採用する。
10 月	・　９代目消防団長に橋本泰二就任する。
11 月	・　千歳市消防山岳救助隊発足する。
	・　元千歳市消防署向陽台出張所長故山崎清吉氏「正七位」を受章する。
平成 25 年４月	・　職員７名採用する。
	・　15 代目消防署長上原髙司退任し、16 代目消防署長に北村雅義就任する。
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。（第 20 期）
	・　元千歳市消防署西出張所長広重和弘氏、元千歳市消防署祝梅出張所係長佐藤清一氏「瑞宝単光章」受章する。
８月	・　耐震性貯水槽２基（60 ㎥級・若草５丁目、60 ㎥級・北信濃 677）を設置する。（消防防災施設整備費補助金）
10 月	・　消防救急デジタル無線を石狩振興局管内６消防本部で共同運用開始する。
	・　元千歳市消防長故須川正直氏「従六位」を受章する。
11 月	・　元千歳市消防署西出張所係長小柳健二氏「瑞宝単光章」を受章する。
12 月	・　元千歳市消防署西出張所長故佐久間廣信氏「正七位」を受章する。
平成 26 年４月	・　職員２名採用する。
	・　元千歳市消防署警備１課長力示信博氏、元千歳市消防団副団長登坂善一郎氏「瑞宝単光章」を受章する。
６月	・　署活動系携帯無線機 40 台をリースで導入する。
11 月	・　元千歳市消防署富丘出張所係長蒲生田雄司氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 27 年１月	・　山岳救助装備品（ヘルメット８個、防寒手袋８双、目出し帽８個）、水難救助装備品（ヘルメット５個、救命胴衣８着）、ビデオ硬性喉頭鏡一式を整備する。（特定防衛施設周辺整備調整交付金）
４月	・　職員１名採用する。
	・　防火委員を 68 名に委嘱する。（第 21 期）

年　月	事　項
	・　元千歳市消防長小林幸治氏「瑞宝双光章」、元千歳市消防団分団長村田刀一氏「瑞宝単光章」を受章する。
10 月	・　職員３名採用する。
	・　機構改革に伴い、本部警防課に主査（ＭＣ担当）を新設する。
11 月	・　元千歳市消防署長今井茂氏「瑞宝双光章」、元千歳市消防団副団長角田憲信氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 28 年４月	・　職員５名採用する。
	・　16 代目消防長水森昭治、16 代目消防署長北村雅義退任し、17 代目消防長に橋本悟志、14 代目消防本部次長に佐藤敏彦、17 代目消防署長に佐藤孝一就任する。
	・　元千歳市消防署祝梅出張所係長佐々木修氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 29 年２月	・　消防総合庁舎の耐震改修工事が行われる。（総務省緊急防災・減災事業債）
	・　新型防火衣 66 着を整備する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
４月	・　職員３名採用する。
	・　防火委員を 69 名に委嘱する。（第 22 期）
	・　機構改革に伴い、本部警防課の主査（ＭＣ担当）を廃止する。
	・　元千歳市消防署西出張所長熊澤政次氏、元千歳市消防団分団長鈴木薫氏「瑞宝単光章」を受章する。
11 月	・　元千歳市消防長土居裕氏「瑞宝双光章」を受章する。
平成 30 年３月	・　新型防火衣 65 着を整備する。（石油貯蔵施設立地対策等交付金）
４月	・　職員５名採用する。
	・　石狩振興局管内消防救急デジタル無線管理運営委員会（札幌市消防局）へ１名派遣する。（総務課付）
	・　機構改革に伴い、本部警防課に指令係を設置する。本部予防課に主査（違反是正担当）を新設する。消防署に消防課を新設するとともに消防課に消防係及び是正係を新設し警備課に配置していた査察係を移管する。救急指令課を統合し救急課を設置するとともに救急調整係を新設し、救急係を三部制に再編する。
	・　14 代目消防本部次長佐藤敏彦退任し、15 代目消防本部次長に佐藤孝一、18 代目消防署長に鈴木浩之就任する。
	・　元千歳市消防署長上原髙司氏「瑞宝双光章」を受章する。
10 月	・　職員１名採用する。
11 月	・　元千歳市消防署警備１課長小林秀辰氏「瑞宝単光章」を受章する。
平成 31 年４月	・　職員３名採用する。
	・　17 代目消防長橋本悟志退任し、18 代目消防長に佐藤孝一、16 代目消防本部次長に樋口護就任する。
	・　９代目消防団長橋本泰二退任し、10 代目消防団長に髙慶康博就任する。
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。（第 23 期）
令和元年 11 月	・　元千歳市消防署祝梅出張所長松村忠明氏「瑞宝単光章」を受章する。
令和２年１月	・　職員１名採用する。
４月	・　札幌圏消防通信指令委員会（札幌市消防局）へ１名派遣する。（総務課付）
	・　機構改革に伴い、消防署消防課を査察課に名称変更し消防係及び是正係を廃止、本部警防課から消防署救急課に指令係を移管、救急係を二部制へ再編し、救急３係を廃止する。
	・　消防署西出張所に消防１・２係及び救急１・２係を新設する。
	・　西出張所へ救急３号車を配置し、救急業務を開始する。
	・　再任用制度の運用を開始する。
	・　元千歳市消防署富丘出張所安孫子豊氏「瑞宝単光章」、元千歳市消防団長橋本泰二氏「瑞宝単光章」を受章する。
６月	・　元千歳市消防長故三谷宣儀氏「正六位」を受章する。
11 月	・　元千歳市消防長水森昭治氏「瑞宝双光章」を受章する。

年　　月	事　　項
令和３年４月	・　職員３名採用する。消防本部初の再任用職員１名採用する。
	・　18 代目消防署長鈴木浩之退任し、19 代目消防署長に宮﨑則儀就任する。
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。（第 24 期）
	・　元千歳市消防署長北村雅義氏「瑞宝双光章」を受章する。
８月	・　東京オリンピックにて女子マラソン競技の警戒その他の業務で職員を派遣する。
９月	・　山岳救助装備品（ザック８個）を整備する。（再編関連訓練移転等交付金）
10 月	・　千歳市消防整備計画を策定する。
11 月	・　元千歳市消防署祝梅出張所長土居弘志氏「瑞宝単光章」を受章する。
令和４年４月	・　職員６名採用する。
	・　北海道消防学校へ１名派遣する。（総務課付）
	・　機構改革に伴い、消防本部主幹（指令共同担当）を新設する。
	・　18 代目消防長佐藤孝一退任し、19 代目消防長に樋口護、17 代目消防本部次長に坂口忠義就任する。
８月	・　千歳市消防創設 100 周年記念式典行う。
10 月	・　ＮＥＴ119 緊急通報システムを導入し運用開始する。（特定防衛施設周辺整備調整交付金）
11 月	・　元千歳市消防署西出張所長藤澤聖氏「瑞宝単光章」を受章する。
令和５年４月	・　職員３名採用する。
	・　定年引上げ制度（65 歳）が導入される。
	・　18 代目消防本部次長に宮﨑則儀就任し、20 代目消防署長に坂口忠義就任する。
	・　防火委員を 70 名に委嘱する。（第 25 期）
７月	・　元千歳市消防本部次長佐藤敏彦氏「瑞宝双光章」を受章する。
	・　活動服、業務帽、エンブレムのデザインを変更する。
８月	・　千歳市役所　企画部次世代半導体拠点推進室に消防本部総務課長及び消防本部総務係長を配置（兼務）する。
11 月	・　元千歳市消防長橋本悟志氏「瑞宝双光章」を受章する。
令和６年３月	・　災害対応ドローン運用開始する。
４月	・　職員５名採用する。
	・　19 代目消防長樋口護退任し、20 代目消防長に坂口忠義就任する。18 代目消防本部次長宮﨑則儀退任し、19 代目消防本部次長に松山賢司、21 代目消防署長に小林英紀就任する。
	・　札幌市消防局警防部消防救助課システム係へ１名派遣する。（総務課付）
	・　消防総合庁舎大規模改修を開始する。
	・　元千歳市消防署富丘出張所長広重照雄氏「瑞宝単光章」を受章する。
11 月	・　泉郷分団の積載車を消防ポンプ自動車へ更新する。（総務省消防庁からの無償貸付）
	・　元千歳市消防署西出張所長石部克也氏「瑞宝単光章」を受章する。
12 月	・　消防総合庁舎大規模改修完了する。
令和７年２月	・　高規格救急自動車（千歳救急５）１台整備する。（北海道エアポート株式会社助成金）
３月	・　消防団員用高性能防火衣一式 27 着配置する。（６ヵ年購入計画初年度　消防団救助能力向上資機材緊急整備事業）
４月	・　職員８名採用する。
	・　北海道危機対策局危機対策課へ１名派遣する。（総務課付）
	・　機構改革に伴い、消防本部財務管理課及び財務管理係を新設、総務課管理係を廃止する。消防本部主幹（指令共同担当）を廃止する。消防署警備１課及び警備２課を統合し警備課を置く。消防署救急政策課及び救急政策係を新設、並びに救急課を救急運用課に、救急調整係を救急運用係に名称変更し、指令係を廃止する。

年　　月	事　　項
	・　防火委員を 68 名に委嘱する。（第 26 期）
９月	・　札幌圏消防指令センター運用開始する。（札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村）
10 月	・　第 26 回全国女性消防操法大会に千歳第三分団出場し、敢闘賞受賞する。
	・　化学剤検知用ポータブル式ＩＭＳ検知器（RKOwlet-3S）を整備する。（北海道エアポート株式会社助成金）
11 月	・　元千歳市消防署救急指令１課長里村貞二氏「瑞宝単光章」を受章する。
令和８年２月	・　高規格救急自動車（千歳救急４）１台整備する。（北海道エアポート株式会社助成金）
	・　救助工作車（千歳救助）１台整備する。（緊急消防援助隊設備整備費補助金事業）
４月	・　職員７名採用する。
	・　20 代目消防長坂口忠義退任し、21 代目消防長に松山賢司就任する。20 代目消防本部次長に安澤淳一就任する。
	・　札幌市消防局警防部救急課救急指導係へ１名派遣する。（総務課付）
	・　元千歳市消防署消防課長新川孝一氏「瑞宝単光章」を受章する。
	・　新型防火衣 25 着を整備する。（４ヵ年購入計画初年度　訓練交付金）